小さき春風達と幻想の者達　（一時更新停止）

Kurokodai

【注意事項】

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

いつもの様にゲームをしながら過ごしているごく普通の高校生

しかし、ある日を境に彼の日常は『非日常』へと変わって行くのであった

※この作品は息抜きに制作されたものです

苦手な方はブラウザバックを推奨します

目　次

第０話　プロローグ ―――― 1
第１話　ピンクの悪魔は存在しなかった ―――― 6
第２話　目田内藤さん ―――― 12

第０話　プロローグ

皆さんは、ゲームをやったことはありますか？
ゲームは１９５０年代前半にバウンシング・ボール（Ｂｏｕｎｃｉｎｇ　Ｂａｌｌ）というコンピューターゲーム？が作られたのが始まりで、そこから現代までにはこの日本では任●堂にソ●ー等の会社の開発したゲームに、さらには同人ゲームにフリーゲーム等のゲームも作られるようになった
お陰で今の日本は、ゲーム大国なんて呼ばれるようになってしまった
もう、侍の国とは見る影もなくなってしまった
おっと、話がずれてしまった
っで、ゲームをやっている人からはこう思っているはずだ

ゲームのキャラに会いたい
ゲームの世界にいってみたい

と
普通に考えれば・・・いや考える前からそれは不可能なことだ
何しろゲームは、人によって作られたものだから
実際にあったことをゲームにしているのではない
人が考えて、人が楽しむために産み出したのがゲームと言うものなのだ
つまり、ゲームの世界はすべて「作りもの」となっているということだ
だから自分は信じなかった

自分は今日までは信じなかった

あ、どうも！はじめまして
俺の名前は星川歩夢といいます
どこにでもいるような高校一年生です
特技は歴史と体育ぐらいで、苦手なものは・・・

理系すべてだ！くそったれ！
おっとつい本音が出てしまったw
あとはまぁ、よくゲームをすることだなぁ
やるゲームと言えば任●堂やソ●ーはもちろん、同人にフリーゲームもよくやる
え？何？俺ボッチなのかって？
よし、チョット表に来いや（^ ω^ #）

～暫しお待ちください～　　＜あうっ！

待たせたな！
ってヘビの台詞をいってる場合じゃねぇな
ていうか、俺にも友達はいるぞ
まぁ、大体はゲーム友達だがなぁ
とまぁ、いろんなゲームをやって来ていたが、その中でもとてもよかったのは、やっぱ『星のカービィ』かなぁ
昔のやつもいいけど、最近では過去にあったアイテムやボスが再登場したり、ボス戦やステージの　ＢＧＭがとても神曲でもう発狂してしまうくらい面白くてやばいんだよなぁ

え？他のゲームはだって？
カービィの次とならやっぱ『東方ｐｒｏｊｅｃｔ』かなぁ？
キャラの立ち絵もそうだけど、シリーズに出てくる音楽も弾幕の配置も本当に一人で作ったのか？というほどの作品だった
とまぁ、こんな感じで俺は学校生活とゲーム生活を楽しんでいる
ちなみにこの家には俺しかいない・・・というより俺しか住んでいない
何？天涯孤独だって？何をいってるんだいワトソン君
俺の親は今も健在だよ
この家は両親が高校の通学のために買ってくれたものなんだ
俺の父ちゃんは、とある巨大企業の幹部をやっているんだ
おまけの業績も良いとのこと
母ちゃもは世界トップクラスのデザイナーをやっている
だからこんな一人には広すぎる家を買ってくれたんだよ（涙）
せめて、マンションか普通の一軒家が良かったなぁ
でも、一人暮らしにはとても憧れていたから、そこに関しては両親に感謝しないとなぁ

―――――――――――――――――――――

歩夢「ハァ～、疲れた」
やっぱ部活帰りは結構体にくるなぁ
もう全体的に筋肉痛だわ
取り敢えず、帰ってきてやることは・・・

歩夢「よし！ゲームやろう！」
帰ってやる事とは思えない
普通なら勉強をするのが普通と思うが
俺はまずは癒しが必要なのだ

さぁ、星のカービィをやるぞ！

～一時間後～

いやぁ、いいよなぁ
ＢＧＭはもちろんのこと、システムもよく作り込んでいるよなぁ
やっぱカービィは最高だわ
おっと、時計を見てみたらもう７時半じゃないか
そろそろ晩飯を作らないとなぁ
歩夢「いざ、参らん戦国（現在）のキュイジーヌ（台所）！」
～４５分後～
歩夢「ふぅ・・・やっとできた」
今日の晩飯はスパゲッティミートソース（ＮＯ虎太郎作）にサラダです
ちなみに俺は一応料理はできる
一人暮らしするにはそれくらいはやっておかないとなぁ
小さい頃からの経験がここで生かされているから良かったよ（涙）
さて、いただきｍ
歩夢「おっと、フォークを忘れていたわｗ」
俺って何やってるんだろう♪
食事するのにフォークを忘れるとか原始人か俺は
すぐさま、俺は壁越しにある食器棚から大きめなフォークを取り出した
よし！これｄ
ガチャガチャ
むむっ？俺のスパゲッティ（晩飯）のあるリビングからなんか物音が聞こえたな？
まさか、泥棒か？
それも飯を盗み食いするだけの泥棒か？

それだったらそいつは傑作(アホ)だなｗ
よし、では携帯電話（１１０入力完了）を手にして、よし！
いざ出撃(通報)じゃあ！
ガチャッ
？「うんにゅ～♪」
居たのは人間ではなく、スパゲッティを食っている生き物だった
生き物？いや、猿とか狸とかそういうものではない
その生き物の姿は、桃色と丸い体をしていて、足は赤色のものであった
その生き物の瞳はまさに癒しを与える様な瞳と小さな口
その生き物はまさにこの世界にはいない存在だった
歩夢「・・・」
？「・・・」
俺がその生き物を見て、硬直していると、その生き物もこちらに気づいて口を止めていた
しばらく静粛が続いたが、最初に声を発したのは
？「ぽよ♪」
ピンクの悪魔だった
その後に俺は
歩夢「えぇ絵江ゑエ!?」
普通では発しない声で悲鳴をあげてしまった
これが俺の非日常への始まりとなるのであった

続く

第1話　ピンクの悪魔は存在しなかった

俺は今頭を抱えていた
俺はすぐに現実逃避したかった
その原因となっているのは・・・
？「ぽよっ♪」
テーブルの上に座っているこいつであった
俺はこいつのことは会った時から嫌ほど知っていた
こいつは確か『星のカービィ』シリーズに登場する主人公ピンク（カー）の悪魔（ビィ）だった
初代では敵を吸い込んで、吐いたりして倒して行く者であったが、夢泉からは新たな力『コピー能力』を手に入れ、その力で敵を飲み込み、敵の持つ能力を自分のものにすると言うチート者へと進化したのだ
ちなみにサイズは原作よりも小さく、言えばフィギュアぐらいの大きさだった
俺は別にそこは良い・・・そこだけは良い
ただ問題なのは・・・

こいつの食欲である
こいつの食欲は底知れぬ胃袋を持っていて、一度食せば、その地の食料は全て消え失せてしまうと言うまさにピンクの悪魔と呼ばれるほどの食欲であった
こいつによって俺が食べようとしていたスパゲッティ等はすでに胃袋の中へと消えてしまった
あぁ・・・俺の晩飯がぁ（涙）
え？インスタントはないのかって？
実は俺インスタント系を食ったことがないんだよ
いつも飯の時は俺が作っているからだ
その為この家にはインスタント系は置いていない

今更料理をしたところでまたこいつに食われるだけだし・・・
それに今だけでなく、これからもこいつはいるかもしれないから、
すぐさま冷蔵庫の中が浄化(食われて)されてしまうだろう
買い出しに行っても同じだ
そうなったらすぐに財布の中がスッカラカンになる
やべぇ、すっげぇ腹が減ってきた
歩夢「はぁ、どうしようかなぁ」
カービィ「ぽよ？」
ため息している俺にカービィはこちらに見てきた
おいおい、もう飯はないぞ
てか俺の飯返せよ（涙）
カービィ「ぽよっ」ピョン
と思っていたらカービィは台所へと向かっていた
この行為から見て考えつく答えは・・・

俺の冷蔵庫(生命線)が危ない
まずいぞ！このままでは冷蔵庫の中身全てが奴の胃袋の中へと消えてしまう
それこそ、絶☆体☆絶☆命である
俺はすぐに立ち上がり台所へと向かった
奴から俺の冷蔵庫(生命線)を死守しなければ
俺はついに台所(戦場)にたどり着き、第1種戦闘配置をしようとした
だがそこで見たのは、冷蔵庫を物色する姿ではなく、オタマを手にして飲み込もうとする姿であった
あ・・・オワタ＼（＾ｏ＾）／
それではここで皆さんに問題です
このあとカービィは何になるでしょうか？
A．柳刃竜一

B．コック
C．ｋｗｓｋ
D．ヌスレットさん（塩振り男）

正解は？
歩夢「越後製菓！」
じゃなくて、カービィは目の前でシェフが被るコック帽をつけ、手にはひとつのフライパンが握られていた
その姿は星のカービィに出てくる敵を震え上がらせた能力、コック（食材変換）カービィである
その力は敵を全て回復（食）アイテム（料）に変えてしまうという恐ろしい能力である
確かこの能力はスマブラXでも切り札としていて、他のプレイヤーをデカイ鍋に吸い込ませ、回復アイテムを生み出す（プレイヤーが食料になるとは言っていない）はずだ
となると・・・

俺は今大ピンチ
と思っていたがそれは遅くカービィは能力を発動しようとしていた
歩夢「うわっ!?やべぇ!!」
能力を発動して、そこにデカイ鍋が・・・現れなかった
歩夢「あっあれ？」
あれ？おかしいなぁ、確かコックって敵を食料に変えるものの筈なんだけどなぁ
と思っていると、カービィはフライパンを大きく振り
カービィ「(カービィスパゲッティ!!)」
なんか発言したんだけど
てかカービィスパゲッティって何？
まんかまずそう・・・
なんて思っていると、フライパンに緑色の何かが現れて、それを宙

に浮かせた
ボンッ！
光がなくなったと思うと目の前に少しデカイスパゲッティセットが生み出された
あ！そういえばカービィってアニメもあったなぁ
その時に出てきたコックって確か無から食料を生み出していたなぁ
確か（カービィステーキ）と（精進定食）だったなぁ
だが何故、このスパゲッティを生み出したのだろう
・・・
まさかこれを一人で食うつもりかなぁ
まぁ、冷蔵庫（生命線）が何とか阻止されたけど
カービィ「ういぅ…」
何と食い意地の張ったカービィがそのスパゲッティを俺に差し出してきた
何このピンクの天使
めっちゃ可愛いんだけど・・・
歩夢「え？もしかしてこれ俺にくれるのか？」
カービィ「ういぃ！」
この時に俺は思ってしまった
目の前にピンクの悪魔は存在しなかったと
歩夢「あっありがとう」
カービィ「ぽよっ！」
俺もお前のことを悪魔と思い込んでごめんな
嬉しいけどこんなには要らないんだよなぁ
ここは、さっきカービィに食われた分を皿に乗せて、後は・・・
歩夢「これはおまえにやるよ」
カービィ「ぽぉよ！」
ものすごい嬉しそうな顔で言ってきやがった
やめて、その笑顔は反則や
とにかく俺はすぐにカービィが作った？スパゲッティを口に含ん

だ
あ…やべぇこれ、めっちゃ旨いんだけど
歩夢「ところでカービィ、お前どこからきたんだ？」モグモグ
カービィ「ぷい？」モグモグ
歩夢「わからないのか？」モグモグ
カービィ「ぷぉよ」モグモグ
どうやら本人もよくわかっていないようだ
全くおかしなことだなぁ
日常な日々が非日常になってしまうとは
とまぁ思っていると、スパゲッティがもうなくなった
てか食っている時に喋るとか、行儀悪すぎだろ俺
さて、食ったら皿洗いをするか
※カービィスパゲッティの皿は何故か消えていました

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

やることも終えて、ゲームもやったしもう寝ようかなぁ
あ・・・
カービィの寝床はどうしようかなぁ
夜にいきなり現れたから家具なんて用意してないよ
てか、普通は現れないからなぁ
取り敢えずタオルを持ってクッションをベッド代わりにしておこう

〜3分後〜　〈3分間待ってやる！〉
何とか寝られる程度にはなったなぁ
これで一応カービィも安眠できるだろう
歩夢「カービィ、これがお前のベッド（仮）だぞ」
カービィ「ぽよ！」ピョイ
モゾモゾ
カービィ「ぷぃゆ！」ピョコ
ベッドに入り込み、タオルの中に潜ったと思ったらいきなり気持ち

良さそうな顔をタオルから出した
何だこいつ、鼻血を出させるつもりなのかこいつ
まぁ、気に入ってくれたなら良いか
俺はすぐに自分のベッドに入り込んだ
歩夢「おやすみ、カービィ」
カービィ「・・・」
ピョン！
歩夢「え!?ちょっ」
ピョコ
カービィ「ぽよっ♪」
ベッド（仮）を作った意味が無かった
まさかのこっちに来るとは
しかもなんかめっちゃ近い
あぁ、これは多分懐かれたのかなぁ？
まぁ、いいや悪魔じゃないみたいだし
歩夢「それじゃ、本当にお休み」
カービィ「うぃ」
この言葉を最後に俺たちは深い眠りへと落ちていった
ちなみにこの時の寝心地はとても良かった

ーーーーーーーーーーーーーーーー

？「この気配は何なのかしら?外の世界から私たちの幻想?と同じ感じがするけど、何処から来ているのかわからないわ。」

第2話　目田内藤さん

カービィがこの家に来て、3日が経った
今の所は何の支障は出ていない
料理の方もカービィが自分で作っている?ことであまり出費がなく普通に暮らすことができた（少しもらっている）
学校の方も影響はないし
非日常のものとの暮らしもこれはこれで良いと思う

そう思っていた

ゴ●リ「ん?何これ?」

―――――――――――――――――――――

今日は休日であった為いつものようにゲームをしようとしていた所
小さいが何やらエンジン音が聞こえて来た
最初は車かなんかと思っていたが、この音は今までに聞いたこともない音であった
するとカービィが何処かへと案内したいような顔でこちらに見つめて来た
最初は無視をしていたが、今度は俺の服を掴んで、引っ張る展開になってきた
ええ・・・まだなんかあるのかなぁ
俺はカービィについていきある場所にたどり着いた
そこは俺がリラックスするのに使っている風呂場であった
俺の風呂場は、お湯張りが自動であり、何よりちょっと大きい
カービィもこの風呂を気に入っているみたいだ
一昨日に入らせた時は、はしゃいで風呂の中を泳ぐと言う行為（あまりの行為に萌え死ぬ所だった）をやっていたし

別に不便はない

風呂に謎の小さい建物と戦艦がなければの話だが

ゴ●リ「ん？何これ？」

ーーーーーーーーーーーーーーーーー

ここは一体？
目の前に見えるのは、熱湯が一面にある湖？だった
この場所は私でも知らない場所だ
私はこれまで鏡の世界に絵画の世界、毛糸の世界に行った事はある
がここはこの三つに世界には当てはまらない
私の知らない世界なのか？
再び厄介なことになったなぁ
幸いなのは、私の部下たちが共にいることだ
私の船も無事の様だ
？「リアクター１出力良好。」
？「パランサー調整００３だス！」
では、ここで私がやる事は・・・
？「いかりをあげるだス。」
？「反重力プラントチェック。１、２、３番ＯＫ!!」
？「セイル解放、ソーラーレベル２８８！」
この知らない世界で・・・
？「機は熟した。今こそ、我らの力を見せる時！」
私達のための世界を作る！
？「だらくに満ちたこの世界をこの手で変えてくｒ」
ゴ●リ「ん？何これ？」

ーーーーーーーーーーーーーーーーー

え？これってまさかあの有名な戦艦ハルバード（墜落船）か!?
すげぇ！本物みたいなものを見るの初めて！
あれ？なんかこれからエンジン音が聞こえるんだが
もしかして、本物？
え!?てことは目田内藤に会えるってことか!?
俺は早速ハルバードを手で持ち、中を覗いて見た
いるいる、メイスにアックス、ジャベリン、トライデント、水兵ワドに鳥
メタナイツメンバーがちゃんといる
なんかみんな俺を見て、慌てているみたいだけど
それより内藤はどこだ？
おっいたあの変な仮面を顔につけて、体はマントで隠し、仮面の下を見たら者は永遠の幸せをもたらす力？を持つ目田内藤だ
一応声をかけてみよう

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー
ジャベリン「メタナイト様！敵の襲来です！」
アックス「突然の奇襲で攻撃準備ができておりません」
鳥「ええぃ！ヘビーロブスターを投入しろぉ！」
メイス「だめだス！投入口が塞がれていて出せないだス!!（涙）」
チキン「なにぃっ！」
水兵「たいへん！たいへん！どうしよぉ！」
悪く思わんでください人「あひぇぇぇぇ！この艦はもうだめだぁ!!わしは逃げるぅ！」
まさかこんな早く襲撃されてしまうとは
もはやこれまでか・・・
メタナイト「クルー全員に告ぐ！至急本艦より脱出せｙ」
歩夢「あのー、すみません。そこから出てきてください」
メタナイト達「「!!」」
いきなり、襲撃して来た者から声が発せられた
しかも、攻撃するのではなく、この船から出てくれと

これは何かの罠か?
だがこのままではさらに悪化するかもしれない
・・・仕方ない
メタナイト「再びクルー全員に告ぐ。一旦外へ移動するぞ」
アックス「メタナイト様!いいのですか!?」
メタナイト「ここで抵抗するより、まず相手の事情を聞いてみよう」
もしかしたら戦わなくても、私達の世界を作り出せるかもしれない
ならばその可能性に賭けてみるのも悪くはないだろう・・・

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー
俺の要求に応じたのか、内藤さん一行がハルバードから出て来た
よかった、ここで戦争なんか起きてしまったら、家が滅茶苦茶になってしまうからなぁ
それよりも内藤さん、カービィよりも小さいなぁ
原作やアニメでは少し大きい筈だけど
まぁ、そこはいいとして早速会話をしないと
歩夢「初めまして、俺の名前は星川歩夢といいます」
メタナイト「歩夢殿か、良い名だな。それで私は・・・」
歩夢「知ってるよ。目田内藤さんでしょ?」
メタナイト「・・・」
あれ?内藤さんが急に黙り込んでしまった
俺なんか言ったかなぁ
メタナイト「・・・がう・・」
歩夢「ぽぇ?」

メタナイト「違ーう!!!」
歩夢「!?」
あ・・・もしかして呼び名が宜しくなかったのかなぁ
だってこの呼び名は谷●さんのメタナイトで言われたことがあるからねぇ
メタナイト「私はメタナイトという名前であり!断じて内藤ではな

い！」
歩夢「あー、はいはいわかりました（棒）」
メタナイト「何棒読みになっておるのだ！」
あはは、なんかコントみたいなのが始まってしまったぜ
しかもメタナイツたちも今に吹き出しそうな顔になってる
・・・お前ら、いい性格じゃねぇか
歩夢「っで、どうしてその戦艦を動かそうとしたんですか？」
俺はそう言って、ハルバードに向けて指を指した
メタナイト「あぁ、それは…」

〜内藤説明中〜　〈内藤では無い！

歩夢「あぁ、なるほど。要は俺の家を君達が住みやすい場所にする為かぁ」
メタナイト「うむ、その通りだ」
原作でも、大体プププランドの制圧目的は侵略者に対策するためのものだしなぁ
そりゃあ知らない所に来てしまったら、自分たちが安全で住みやすい様にしたいと思うよ
なんかちょっと可哀想だなぁ
歩夢「別に制圧しなくても良いよ」
メタナイト「？、何故なのだ？」
歩夢「だってここで普通に住めば良いじゃない？」
メタナイト「なっ!?いいのか!?」
歩夢「もちろんさ☆（ド●ルド）」
そんな侵略しないで、楽しく暮らした方が俺的には良いと思う
だから俺は、戦いにならない様に言ってみた
果たして・・・
メタナイト「・・・本当にいいのか？」
歩夢「もう、だから良いって言ってんじゃん」
メタナイト「・・・感謝する歩夢殿」

そんな訳でメタナイトが仲間になったよ
やったねたえちゃん！家族がふえるよ
閲覧者「「おいばかやめろ！」」
続く